

路地百選推薦書

推薦者氏名：鈴木 隆男

推薦する路地（のまち）の名称	秋田市川反飲食街の路地
所在地	秋田市大町 1～6 丁目

【推薦する理由（路地のよいところ）】

秋田市中心部を流れる旭川の右岸に位置する大町 1～6 丁目に沿って開けた飲食店街である。川反通りと呼ばれる秋田市の最も賑やかな夜の街である。明治 10 年代後半から飲食店が集まり、昭和 35 年前後には約 1300 店に達したが、現在は約 900 店まで減っている。

明治末、大正から昭和初期にかけて、戦争特需などを背景として歓楽街・川反は栄華を誇った。そこで活躍したのが川反芸者である。川反芸者は器量よしで、踊りも唄も上手だった。県外から訪れた客によってこの評判は全国にとどろいたという。昭和初期には 150 人もいた川反芸者だが、現在ではわずか 5 人のみである。

【写真添付】



上：川反の案内地図
 右上：中心の通り
 右：すざらん通り
 左上、川反 5 丁目小路
 左：美経（みきよう）小路

路地	面積	約 h a	路地の延長	約 m
のまちの概要	成り立ち、特色等	「かわばた」という地名は川のほとりという意味で「川端」と書くのが普通だが、これを「川反」と書いた。藩政時代には「川端」と書いていた、当時の住人はほとんどが武士であった。しかし、まちが大きくなるにつれて「川端」は町人の街となり、武士は川の東側に移り住むようになった。このため川の西側沿いにある「川端」は、武士から見て川の反対側に位置となり、「川反」の字が当てられたと云われている。 町人の町川反は、旭川の河港の街として栄えた。多くの豪商の商家が軒を並べ、商業の中心地となり、料亭も軒を並べるようになり、たくさんの芸者生まれた。 町人の町・川反が生まれ変わる転機となったのは明治 19 年の大火（俵屋火事）であった。この火事で消失した芸者屋、料理店が川反 4 丁目に次々と移転を始め、これが歓楽街・川反の始まりとなった。		

※路地のまちの概要は記入できる範囲で結構です。それぞれの枠の大きさは各自で調整願います。